

(様式2)新規評価シート

林務部 森林づくり推進課

事業名		山地治山		路河川名等		—	
事業毎の通番		7		市町村名		木曾町	
事業目的		計画地は木曾町日義の徳音寺集落の後背地にある小渓流とその周辺に存在する山腹崩壊地である。計画地の小渓流は山地災害危険地区に指定されており、昭和49年施工の谷止工もあるが満砂している状態である。渓流内は溪岸の浸食が進行しつつあり、今後の降雨により渓流内から下方集落への土砂の流出の危険が予測される。このため渓流内に谷止工を施工するとともに、周辺の山腹崩壊地の復旧をはかり集落の土砂災害からの保全を図る。		箇所名(ふりがな)		徳音寺(とくおんじ)	
しあわせ信州創造プランにおける位置付け		4-1地域防災力の向上		事業実施の根拠法令等		森林法	
関連する事業、計画等							
保全対象・範囲 受益対象・範囲		人家17戸、公共施設(町道徳音寺線・徳音寺コミュニティセンター)、一級河川(木曾川)					
着手年度		平成27年度		事業期間		4年間	
完成年度(見込み)		平成30年度		費用対効果		3.9	
全体事業内容(主な工種)		谷止工2個 山腹工0.22ha 土留工4個ほか		事業費(千円)		187,000	
年度事業内容(主な工種)				国庫		93,500	
				その他		84,150	
				県債		0	
				一般財源		9,350	
事業効果		直接的効果(定量的・定性的) 人家17戸、公共施設(町道徳音寺線・徳音寺コミュニティセンター)、一級河川の保全					
		間接的効果(定量的・定性的)					
必要性		○人家戸数: 17戸 ○公共施設数: 2箇所 町道徳音寺線、徳音寺コミュニティセンター ○災害時要援護者関連施設の有無: なし ○保安林・林業用施設: あり				評価 A	
重要性		○過去の災害履歴: なし ○交通遮断による地域経済への影響: 影響度小 ○地域防災計画上の位置付け: あり				評価 B	
効率性		○費用便益比(B/C): 3.90 ○事業期間: 4年 H27~H30 ○工法等の比較検討: 検討なし ○流域の総合調整: なし				評価 B	
緊急性		○流域の地形、地質: ○平均溪床勾配(平均山腹勾配): 17° ○下流の堰堤等の整備状況: 概ね満砂 ○山地災害危険地区危険度・土砂災害防止法指定区域: 山地災害危険地区(崩壊土砂流出)426-1・A				評価 A	
計画熟度		○事業情報の共有: 関係者を中心に周知 ○地域の取り組み: 協力的である ○地域の合意形成: 合意形成が図られている ○住民との協働:				評価 B	
部意見		荒廃渓流・山腹共に豪雨による拡大が懸念される。下方保全対象の被災が懸念されるため、対策を行う必要がある。		行政改革課意見		渓岸浸食が進み不安定土砂が堆積している。また、新たな山腹崩壊も発生していることから、必要性、緊急性が認められる。	
				評価結果		総合評価 ○ B	

【位置図、平面図、構造図等】(縮尺任意)	
 	
【整備の必要性がわかる状況写真等】	
 	
①事業実施に至る歴史的背景	木曾町日義の徳音寺地区の後背地は、地質が脆く過去に土砂災害もあったことから大正時代に保安林に指定され治山施設が施工されるとともに、山地災害危険地区(崩壊土砂流出危険地区・山腹崩壊危険地区)に指定されている。近年は目立った災害は起きていないが、渓流の溪岸崩壊の進行や山腹崩壊地の拡大が発生していることから、治山事業により住民の安全・安心を向上していく必要がある。
②地域からの要望経緯及び地域の関わり	平成27年度治山事業要望が木曾町よりある。平成26年6月12日、木曾町担当者、地域住民と共に現地踏査を実施した。
③事業説明等の経緯	木曾町を通じ地元地区に説明予定。
④他事業・プロジェクトとの整合、関連	特になし。
⑤自然環境・生活環境への影響と配慮	計画地のうち山腹崩壊地は、木曾谷の主要道路であり県外観光客の通行も多い国道19号から非常に目立つ位置にあり、事業実施により森林に復旧することで景観の向上を図る。施設整備にあたっては木製残存型枠を活用した工法を積極的に計画する。
⑥地域活性化への影響と配慮	事業計画地周辺において開催される「木曾義仲旗揚げ祭り」が、事業実施により安全な環境の下、継続的に開催されることで地域の活性化に資することが出来る。
⑦その他	事業代表地点の緯度経度 北緯:N 35-53-45 東経:E 137-46-02